

私たちは提言します。

21世紀の日本にとって、 農山村が、なぜ大切なのか

揺るぎない国民的合意にむけて

ダイジェスト版



平成13年7月
全国町村会

日本再生にむけて、私たちは次のような考えで提言します。

私たちに、今、問われていることは何でしょうか。

わが国は、バブル崩壊後の後始末だけでなく、産業社会の変転、少子高齢社会の到来など歴史的転回から生まれた諸問題に直面しています。それを解決し日本を再生するためには、考え方や制度を根本的に見直して再編し、困難と痛みを伴うものの、思い切った改革を実現することが求められています。

その一方で、「都市住民に犠牲を強いて農山村を優遇している」「地方交付税がある限り町村は自主的に合併するはずがない」といった、都市と農山村との利害の対立をことさら強調する「声」もあります。そのために農山村の人たちは将来に対する大きな不安を抱えています。

しかし、農山村の実態を基本的に認識しないまま都市と農山村の対立をあり、真の問題から人々の眼をそらそうとする議論は、日本再生にむけた「改革」にはけって役立ちません。

日本再生にむけて、今、本当に必要なのは何でしょうか。

都市と農山村が今までのあり方を反省し、互いに学び合い、日本再生にむけて揺るぎない国民的合意を創り出すことこそ、時代の要請です。

そのために、私たちは提言します。

都市側には農山村の実態と悪戦苦闘しながらも自立しようとしている町村の実態を理解することが、一方、農山村の側にはかけがえのない農山村の維持と発展に町村の役割がいかに重要かを訴えていくことが、そして両者の間に対等・協力の新たな関係を形成していくことが必要と考えます。

この提言は、これまでの考え方を墨守し、既得権益を守ろうとするものではありません。都市と農山村の共存にむけて揺るぎない国民的合意を創り出すため、町村としての決意を伝え、広く各界各層の方々の理解を求めるものです。



雪の合掌造り民家(岐阜県白川村)



ハーブの里“香木の森公園”(島根県石見町)

農山村の価値を、あらためて考えてみてください。

農山村にはどんな価値があるのでしょうか。

澄んだ大気のもとに広がる田園とたおやかに流れる川、そして寄り添うようにたたずむ民家。こうした農山村の風景は私たちの心を和ませてくれます。しかし、農山村には景観だけでなく、国民の生活を支える5つの基本的な価値があります。

生存を支える

農山村は、国民の生存に欠かすことのできない食料の安定供給に大きな役割を果たしています。

国土を支える

農山村の水田や畑、森林は、洪水の被害を防止したり、貴重な飲料水となる地下水をかん養するとともに、二酸化炭素の吸収や酸素の供給といった人間の生存に関わる機能を有しています。

文化の基層を支える

農山村は、日本文化の源であり、個性ある地域文化を育てるとともに、21世紀を迎えて重要性を増しているスポーツや芸術などの活動の舞台として、新しい文化を創造しています。

自然を活かす

農山村は、日本を代表する景観や景勝地といえる国立公園や国定公園の多くを有し、すべての人たちにとって、新しいライフスタイルを実現し、創造的な自由時間を過ごす不可欠な空間となっています。

新しい産業を創る

農山村は、その環境を活かした新しいツーリズムなどの舞台となるとともに、ハイテクや情報、保健・医療・福祉といったヒューマンサービス産業など新しい産業が展開される有望な場となっています。



四万十川と岩間沈下橋(高知県 西土佐村)



子供たちの紙すき練習(兵庫県 加美町)

都市と農山村はともに気づき始めました。

都市との交流を通して、農山村は自らの価値を主張し始めています。

都市の人たちは、都市では生み出しえない価値を農山村に見い出し始めています。

農山村を発展させるための町村の役割を考えてみます。

豊かな生活空間の創造

人口が少なく空間が広い農山村においては、住民の納得のもとで医療・教育・情報など「必要な都市的なサービス」を提供するとともに、これらの**高レベルの生活サポート機能**を支えていくことが必要です。

少子高齢化が進んでいるなかで地域の生活を支え合うためには、例えば旧村や小学校区程度の大きさで地域社会の仕組みを議論できる**新しい「寄り合い」の場**を創ることが必要であり、それが町村全体の新しいまちづくりの場にも発展するでしょう。

高レベルな生活サポート機能を提供するためには、**複数の市町村が連携**して支える方法も有効です。そこでの議論を通して、町村の枠を越えて新しい課題に挑戦する人たちも生まれてきます。

町村の持つ優位性の発揮

豊かな自然を地域の誇りとして守り活用することこそ、**創造力豊かな地域づくり**です。例えば、1000年にもわたり地域の地形と水環境を守ってきた棚田を保存できるのは地域の環境を知り尽くした人たちであり、その意味でも町村に寄せられる期待は大きく、また責任も重大です。

農林漁業の振興にはきめ細かな目配りによる創意工夫が必要であり、町村自治の仕組みと農林漁業がしっかり結びつくことにより大きな経済的効果が生まれます。そうした**産業政策を担えるのは「顔が見える規模」の町村**であり、実際に町村が積極的な内容のある関与を行っている地域では、めざましい成果を上げています。

農山村が活力をもつためには、住民一人ひとりが地域の問題や将来を考え、地域の人たちと議論し合うことが必要です。例えば、国の基準に満たない規模の圃場整備を簡略化した方法で進め、工費も工期も大幅に節約するという効果を上げている例もあります。そうした**自己決定権を地域に残す**うえでも、町村は小規模自治体としての特性を発揮できます。



住民会議の光景(北海道ニセコ町)



棚田(富山県山田村宿坊)

[写真提供:農林水産省 農村整備総合調整室 第8回美しい日本のむら景観コンテスト「農林水産大臣賞」より]

自立のための町村の改革

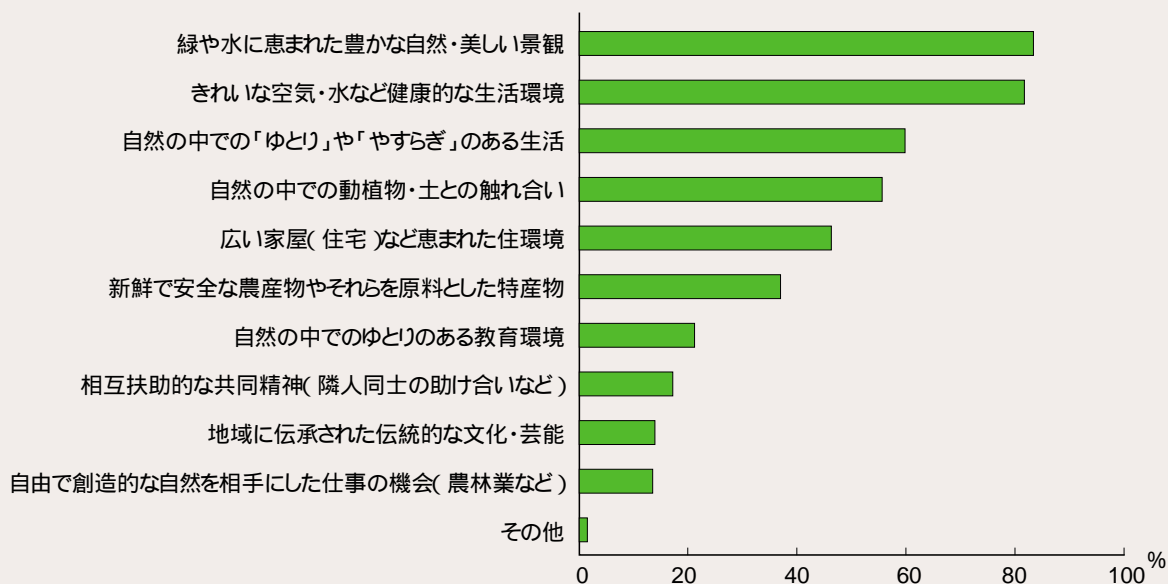
町村は、住民のニーズを的確に把握して地域生活の質を高めていく政策が求められています。そのためには、町村の自主財源を充実・強化することにより、国の補助金等依存財源に左右されることなく**政策の優先順位を町村が決定**することが必要です。

地域のビジョンを創り上げるのは、地域に根つき、生活している地域住民の義務であり権利です。町村は、そうした**地域活性化ビジョン**をもち、**農山村の個性を活かす政策を展開**することによって、地域全体を発展させていくことが必要です。

情報の共有と住民参画によって**住民と行政の新しい協働システムを構築**することが必要です。町村には「顔が見える規模」という利点があり、その構築にむけて高い可能性をもっています。

町村は、住民の顔が見える規模であるからこそ、個人やグループによる工夫が大きな波及効果を生み出しています。したがって、地域を活性化するためには、**農山村に踏みとどまり、気概を持つ人材を育て活用**することが必要です。

都市住民が感じる都市では得られない(体験できない)農村の魅力 (複数回答)



資料[財]21世紀村づくり塾「都市住民に対する「ぜひとも住みたい快適農村」についてのアンケート」



木造のホール“小国ドーム”(熊本県小国町)



湯尻川(群馬県熨恋村)

私たちは、揺るぎない国民的合意にむけて提言します。

自治体は、平成12年の地方分権一括法の実施によって、自己決定・自己責任の原則の下、個性ある地域づくりにむけて創意工夫を発揮することを強く期待されています。しかし、財政の危機的状況が深刻さを増しており、私たちは、行政サービスの取捨選択の方途を地域住民に問いかけつつ、徹底した行財政改革を進めなければなりません。

そのための有力な選択肢の一つとして、自主的な市町村合併も推進されつつあります。しかし、合併は住民にとって最重要事項であり、すべての町村は熟慮・検討して、自らの将来を選択すべきだと考えます。

私たちは、こうした時代の要請に果敢に応えつつ、3つの決意を表明するとともに、理解と支持を強く訴えます。



吉野林業地(奈良県川上村)



襟裳岬
(北海道えりも町)



ひこばえの村での植林(岩手県室根村)

1. 農山村の自立にむけて

美しい景観をたたえ、住む人が地域に誇りと自信をもっている農山村は全国民の財産です。町村は、**農山村の良さと価値を再認識し、美しい地域を創ります。**

農山村では、地域的な自立を果たすことが必要です。町村は、農山村にしっかりとした所得をもたらすため、**異業種・異集団の組織化を図りながら、産業区分をこえて地域を重層的に活用します。**

これからの時代にとって、自然との共生は大前提です。町村は、地域の自然環境を知り尽くした人たちと協働して、**地域再生に取り組みます。**

2. 町村自治の充実にむけて

農林漁業の振興は町村行政に不可欠な課題であり、自治の仕組みとの有機的な連携が必要です。町村は、**地域に根ざした産業政策の担い手になります。**

町村には、地域全体を見渡し、**住民ニーズをきめ細かく捉え、施策調整を図りやすい優位性があります。**そのメリットを活かして、**独自性を発揮します。**

町村は住民に最も近い「最初の政府」です。その責任を全うするため、情報公開と住民参画を一層促進しながら、**地域生活の質を高める政策を精選します。**

3. 農山村と町村の自立支援にむけて

山と川と海が生態系として結びついていることを考えると、農山村が減れば、やがて都市も滅びることとなります。農山村の多面的な価値を大切に考え、**都市と農山村の共存を国是とすべきです。**

日本文化の豊かさは、その多様性にあります。多様な地域が全国に息づくように、**都市とは異なる農山村の重要性に眼をむけるべきだと考えます。**

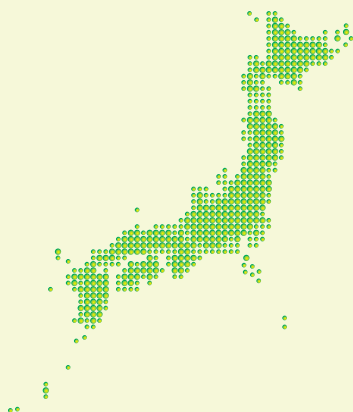
全国画一的な自治制度の下で多くの事務を義務づけられ、しかも自主財源が乏しく町村はますます苦境に立たされています。農山村の多面的な価値を守り、町村の多様性が発揮できるような、**事務と財政の新たな自立支援の仕組みが必要**です。



伝統的な町並みを創出(長野県 小布施町)

全国町村会は、大正10年に全国町村長会として発足し、昭和22年には全国町村会と名称を改め、現在に至っています。昭和38年には町村長の全国的連合組織として自治大臣への届出団体となり、また平成5年には内閣又は国会に対して意見具申ができる団体となりました。平成13年7月現在、全国にある2,554の町村によって構成されています。

主な活動としては、町村を中心とした地方自治の振興・発展にむけた政策の研究や、政府・国会に対する要望、地方行政にかかわりのある政府審議会への参加などを行っています。



全国町村会

東京都千代田区永田町1 - 11 - 35 全国町村会館

TEL 03 - 3581 - 0482

FAX 03 - 3580 - 0527

URL:<http://www.zck.or.jp>